

非常災害時児童引き取りカード (H. 28)

久喜市立久喜小学校

児童名

		児 童 名	
年 組			
年 組			
年 組		保 護 者 名	
年 組			

地区名・班長名

所 属	地区	班 長 名	() 年
--------	----	-------------	-------

引き取りに来られる可能性のある代理者（近所の方）

児童との続柄	氏 名

班担当教師名

班担当教師名	
--------	--

家庭用DIGワークシート

1 部屋の間取り図をおおまかに書いてみよう。

(家族で協力して書いてください。)

2 上の間取り図に震度7の地震が起きたときの状況を赤で記入してみよう。

3 このような状況になった時どう行動するか、家族で話し合おう。

<キリトリセン>

<キリトリセン>から下を切り取って、4月22日(金)までに提出してください。

年 組 名前

話し合ったこと (児童が記入しても、保護者が記入しても結構です。)

話し合いのポイント

- ① 家族同士の連絡方法
- ② 災害発生の直後にすべきこと
- ③ 避難するときに気をつけること
- ④ 家族の避難先と道順
- ⑤ 家族が離れているときの集合場所
- ⑥ 非常持ち出し品のリスト作り など

児童の感想 (兄弟がいる場合は話し合ってから書いて上の学年に提出する。)

保護者の感想

地震が起きたときの様子を想像してみよう

○大きな地震が起きたときの様子を想像して、危険を見つけよう。

コース	年 組 名前	
地震が起きたときに、危険がありそうな場所	どんな危険があるでしょうか。	

通学班D I Gの様子

通学班ごとに一枚の地図を囲んで活動します。P T A地区役員さんが進行係になり、話し合いを進めていきます。児童と保護者が一緒になって、通学路の危険箇所やどう行動するのがより安全かについて話し合います。話し合ったことは、通学班の班長が発表します。



DIG 担当教員用 進行表

DIG 開始	2:40～	①〇〇地区の DIG を始めます。これは、もし地域にいるときに、久喜市で震度7の地震が起こったとしたら、どのような危険があるのか、そして、どう行動したらよいのかを話し合っ、下校しながら、それを確認してもらい訓練です。ここからは新通学班ごとに話し合いをしてもらいます。最後にどのような話し合いをしたのか発表してもらいます。各班ごとに地区委員さんが進行していただきますので、地区委員さんの話をよく聞いて話し合いをしてください。それでは、地区委員さん、お願いします。
DIG 中		(各班の話し合いの様子を見回ってください。)
DIG 後	3:03～	②そろそろ各班、発表の準備をしてください。 ③それでは、1班から順番に発表してもらいます。班長さん、お願いします。良い意見は自分のワークシートに書き足しましょう。 ④今日話し合ったことを生かして、地震が起こっても、自分で考えて行動できるといいですね。
移動	3:10～	⑤これで、〇〇地区の DIG を終わりにします。〇〇門に集合して下校しますので、忘れ物のないように、帰りの仕度を持って、靴に履き替えて、〇〇門に集合してください。新班長は一年生を昇降口に迎えに行きましょう。
下校	3:15～	(下校は地区の委員長さんに進行していただきます。途中まで付きそって、DIG の内容が確認できているかを確認してください。)

DIG 地区委員さん用 進行表

①あいさつ	2:41～	(地区担当教員から指示があったら) ①これから、〇〇地区〇〇班の DIG を始めます。よろしくお願いします。
②想定	2:42～	②埼玉県で震度7の地震が起きたとします。 ③そのときに、どのようなことがおこるのか、そして、どう行動したらよいのかを話し合います。
③危険箇所	2:43～	④まず、どのようなことが起こるのかについて話し合います。大きな地震が起きたときに危険だと思ふ場所と、どのように危険なのかをお家の方と3分間話し合ってみてください。 ⑤それでは、上の学年から順番に発表してもらいます。〇〇さん、お願いします。〇〇さんお願いします。(全員発表させる。) (発言できなそうな児童は傷つけないよう配慮して抜かす。) (地区委員さんも思い当たる場所があれば付け加える。) ⑥これで、〇〇班の通学路で地震が起こったときの危険な場所がわかりました。
④行動	2:53～	⑦では次に、このような状況になった時、どう行動するかについて話し合います。 ⑧まず、学校の近くだった場合は、どうしたらよいと思いますか。思いついた人は手を挙げてください。(手が挙がらなかったら、高学年に発言を求め。) (どうしても発言できない場合は、地区委員から行動を提案する。) <u>※発表内容をふせんに書いて地図に貼っていく。(地図に直接書き込みはしない)</u> ⑨次に家と学校のちょうどまんなかあたりだったらどうしたらよいと思いますか。(同上) ⑩最後に家の近くだったらどうしたらよいと思いますか。(同上) (はやく終わりそうなら、地区委員さんから「もし、〇〇だったら」と質問する。) ⑪それでは、〇〇班では、震度7の地震が起こった場合、学校の近くなら〇〇、まんなかくらいなら〇〇、家の近くなら〇〇ということになりました。では、班長の〇〇さん、この後、発表がありますので、今の内容を発表してください。よろしくお願いします。
⑤班ごと発表	3:03～	(進行は担当教員が行います。)
⑥門へ移動	3:10～	(進行は担当教員が行います。)
⑦下校	3:15～	(進行は地区の委員長が行います。下校時にご自分の担当された班の話し合った内容を確認してください。)

補足資料1 主体的に判断・行動できる能力の育成について

「訓練の中身を見ると、震災時の児童管理（引き渡しも含め）をどのように行うかが前面に出ており、子供たちの主体的に判断・行動する能力の育成を想定しにくいものがある。」という御指摘に対しての返答です。御指摘を受け、「自助」にかかる部分の説明が不足していることを認識しました。本校では、地震対策総合訓練を通して、地震災害時に主体的に判断・行動する能力を児童個々に育成することを目指し、下記の仮説に基づいて学習活動を展開しています。

子供たちの主体的に判断・行動する能力を育成するための仮説

地震災害時の避難行動について、基本的な方針を理解した上で、自分の行動を自分で決める経験をし、それぞれの判断・行動について、比較検討して自らの思考過程について再構成する学習を行うことで、児童の主体的に判断・行動する能力が育まれる。

仮説の解説

「地震災害時の避難行動について」については、教育課程全体を通じて養われる「主体的な判断力」を、本行事の特性を踏まえ、地震災害時の避難場面に限定してとらえることを示しています。

「基本的な方針を理解した上で」については、生きて働く知識・技能として、災害時の避難行動について、第1動作と第2動作に分け、第1動作については「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」という視点で自身が移動するしないを含めてより安全な行動を取ること、第2動作については、避難すべき場所を把握し、より安全な避難ルートを見出し、より安全にそこまで到達する行動を取ることの基本方針とすることを理解させることが主体的判断力・行動力を育成する前提にあることを示しています。

「自分の行動を自分で決める経験をし」については、解の決められていない問いに対して、批判的思考を働かせて、意思決定を行う共通体験を得ることを示しています。例えば、一人一つの机と椅子がある自教室においては、第1動作はほぼ一つの解に集約されますが、廊下歩行中や特別教室などにおいては、条件差によって最適解が変わります。そのような場面で、個々が出す結論は違えども、自分の行動を決定する経験を共有します。

「それぞれの判断・行動について、比較検討して自らの思考過程について再構成する学習を行うこと」については、それぞれの判断と行動について比較検討する話し合いを行い、吟味したうえで自分なりの最適解を産み出す学習を示しています。これにより、唯一解を見つける意識から最適解を考える意識への変容が図られます。

「児童の主体的に判断・行動する能力」については、育もうとする能力を示したものです。

実施した方策

①スポット訓練（地震対策総合訓練前々日）

- ・授業時間中 緊急地震速報着信から避難場所へ移動開始するところまで
- ・話し合い：それぞれの取った第1動作について

②スポット訓練（地震対策総合訓練前日）

- ・休憩時間中 地震到達から避難場所へ移動開始するところまで
- ・話し合い：それぞれの取った第1動作について

③避難訓練（地震対策総合訓練時）

- ・右図の位置で緊急地震速報着信
→避難場所に到達するまで
- ・話し合い：それぞれの取った第1動作について
避難場所までの行動について

④DIG（地震対策総合訓練時）

- ・経験したことのない災害をイメージして地域の課題を発見し、災害対応や事前の対策などを検討

